

## 第 70 日本 PTA 全国研究大会 山形大会 参加報告

富士市 PTA 連絡協議会  
会長 服部 英之

新型コロナウイルスが世に出回り、PTA 活動など数々の事業が中止を余儀なくされ約 3 年がたちました。富山大会中止、北九州大会は一部関係者のみに縮小してのリモート開催でした。今年度の山形大会は、感染対策を講じたうえでの開催が決定したため、8 月 26 日から 2 日間参加させていただきました。

当月の前半には、北陸や近畿を中心に線状降水帯による記録的な大雨で山形県には大きな被害が出ているので、凄く心配していましたが、スローガンの中にあります「あがらっしゃい精神」で乗りこえ、会場では団結によるパワーを凄く感じました。

本大会では、「人とひとのつながりを体感しよう！～あがらっしゃい精神の山形から～」の思いを軸に「「いのち」のつながりや、多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらく PTA 活動をメインテーマに立て、また今現在コミュニケーションの基本である「会う」ことが極端に制限され、本来大切な「つながり」というものを感じる事ができなくなっている with コロナの時代であるからこそ、わたしたちが繋がりを大切にしていくものと考え、参加する意義を強く感じました。

一日目の分科会では、文部科学省協力による「メディア・リテラシー(情報活用能力)育成における学校教育と家庭教育の役割～子供たちへのメディア・リテラシー教育を考える～」に参加させていただきました。オープニングでは、歓迎アトラクションとして東北芸術工科大学和太鼓研究会「太恵」の太鼓演奏があり、全員の音が一つになるような素晴らしい演奏で、まだ一連の所作も素晴らしく、グループの一体感を感じました。基調講演では、「GIGA スクール構想で育むメディア・リテラシー」と題して、話を聞かせていただきました。現在の GIGA スクール構想は、児童生徒が日常的に情報端末を活用して、調べたりまとめたり発表したりする活動が出来るようになっている中でメディア・リテラシーが重要な力となって来ている一方で、コンピュータでの OECD 調査では、日本人の子供たちは情報を調べたり、情報を批判的に読解する力が、先進国の中でも低い位置に居るという事もありました。日常的に情報端末を活用出来る時代になった今だからこそ、これまでと違った発想・視点でメディア・リテラシーの育成を取り組んで行く必要があるのではないかと感じました。

実際の教育現場でどのようにメディア・リテラシーが育成されているか、またこれからの ICT 環境整備の在り方や問題点を理解した上で、私たち保護者が果たすべき役割とは

何なのか？少子化が進み、これから人口が減る時代に子供たちに必要なものはなにか？将来の人生プレゼンにはどんな職業があるのか？今後の情報社会をいかに利用していく事ができるのか？生徒児童の多くはパソコンの使い方は、娯楽としての利用は出来ていても、学びとしての利用はまだまだだと考えます。ICTを活用し学ぶ事で、GIGAスクール構想をより良いものとなるとおもいます。また、必然的にメディア・リテラシーを子供たちに育成した上で進めていくことで、子どもたちの未来を切りひらく事が大切であり、このメディア・リテラシー(情報活用能力)を習得する為には、GIGAスクール構想は凄く重要なツールだと凄く感じました。

二日目の全大会での歓迎アトラクションでは、テレビの観光番組に出演していたこともあり、静岡でも知名度のある山形県出身の「朝倉さや」の歌唱や、「山形大学」の花笠踊、「村山産業高校」の徳内ばやし、「出羽三山神社」の法螺貝などで出迎えていただき、記念公演では「飯森範親」先生率いる山形交響楽団による演奏を聴くことが出来ました。1つ1つのパートが楽器の特性や表現力を生かし、1つの音楽を作っていく。わかっていたことではありますが、誘い出したり抑えたり・・・そのコントロールを指揮者が担っている。これも団体行動またはグループ活動・PTA活動にも必要であり活動の先導をしていく人の重要性を再認識させていただきました。今回は会場がホールではなかったのですが、とても素晴らしい演奏でしたので、また機会があれば聞きに行きたいと思いました。

本大会では特に「メディア・リテラシー(情報活用能力)育成における学校教育と家庭教育の役割 ~子供たちへのメディア・リテラシー教育を考える~」をテーマにした分科会が大変印象に残るものとなり、凄く勉強させていただきました。ありがとうございました。